

牧田議員の「虚栄心」と「傲慢さ」の言葉の数々。
何もかにも、自己顕示の材料にしてしまう。
自分をどれほどの「高み」に押し上げれば、気が済むのか？

ここでも、牧田議員の議事録を掲載しておきます。

あの一、最近ちょっと難しい言葉は『ひらがなにしましょう』みたいな
変な風潮があるんですけど、ミズバショウくらい漢字で書きましょう。
漢字を読めるようにしましょう。①松尾芭蕉の芭蕉であるし、歴史的な
言葉なので、ここまでひらがなにする必要は無い。ここは漢字で書きまし
ょうと思うのです。(笑い)
いや、これはね、笑い事ではないのでして、最近、思うんですけど、新聞は
どんどん紙面を大きな文字にしましょうということにしますよね。
見やすくわかりやすくと言っているんですけど、②わかりやすくするため
に、漢字で表記すべき所をひらがなで表記したりするようになってから、
新聞の記事は非常に劣化していると。これはも一、新聞というか、一般の
社会時評の方々も、みなさん、そう言うんですけど、③相手の知性をバカ
にしていると自分の知性も落ちてくるんです。これは間違いないです。
今の新聞記事の社説なんて全然読めないです。何に言っているんだ。
お前って、そんな誰が言っても批判出来ないことしか書くなと言うように。
僕はもう段々腹が立ってきて、④最近、農業問題とかも、Q&Aとかって、
書くじゃないですか。これはどういうことなのと質問があって、アンサー
としてこれは、こうこう、こうだよって。バカにすんなと思うんですよ。
お前なんか上から目線でしょうと。お前らどうせわかんないんだから、
新聞社、私が教えてあげましょうみたいな姿勢が見えてて、段々そんなことを
やっているうちに、⑤新聞記事もひどく間違いが多いし、よく、NHKの記者も
言い間違いをして、あとで、訂正とかしてますけど、非常に多くなっている
ので、あの、なんかね、やはりね、皆さん、国民の知性を信じましょうよ。
これくらいのことは漢字で書きましょうと思います。

「虚栄心」と「傲慢さ」から出た言葉の数々

牧田議員は、議会での短い発言の中で「①「ミズバショウくらい漢字で書きましょう。松尾芭蕉の芭蕉であるし、歴史的な言葉なので」と言ったかと思えば、②「新聞記事は非常に劣化している。」と言ったり、③「相手の知性をバカにしていると自分の知性も落ちてくるんです。」とか、挙げ句の果てに④「今の新聞記事の社説なんて全然読めないです。」とまで言いました。そして、新聞の「Q&A」に、「バカにすんな」と怒ってみせる。「俺は何でも知ってるんだぞ」と言わんばかりの思いが、不健康に屈折した語り口で訴えています。

新聞の「Q & A」は、読者をバカにしたものではありません！
新聞の「Q & A」は、新聞倫理綱領の要請に応えたものです。

牧田議員は、「最近、農業問題とかも」と、「農業問題」を例に挙げて、新聞社は、「上から目線」で「お前らどうせわかんないんだから、新聞社、私が教えてあげようみたいな姿勢」であると批判しています。これは、新聞社の「上から目線」という認識から言えば、批判の主旨は、特に農業問題に限った話ではなく、新聞社の「Q & A」一般に対する批判と受け止めて良いものと思います。

果たして「Q & A」は、「上から目線」の代物^{しろもの}なんでしょうか？

農業を経営している牧田議員から見れば、農業問題の「Q & A」は、初歩的な問題なのかも知れませんが、農業と縁もゆかりも無い大多数の人にとっては、その初歩的問題の理解には、「Q & A」は、まことにわかりやすい解説であり、大事な情報提供の一つです。

牧田議員にしても、農業問題以外では、（場合によっては農業問題でも）、十分な知識を有していないことだって有るはず。そのことは、牧田議員の発言を聞いていたら良くわかります。（例えば、教育問題を取り上げても学習指導要領が頭に入っていないなど）それを、あたかも、新聞社が、読者大衆をバカにしているかのように言い、自分の「物知りぶり」をひけらかすために、読者大衆をダシに使った言い方は、「虚勢のため」とは言え、いかがなものかと思えます。

牧田議員は、新聞倫理綱領に「国民の知る権利は、民主主義社会をささえる普遍の原理である。」との一文があることを知っているのだろうか？

新聞・マスコミの使命の中には、国民の「知る権利」に応える責任と義務があるのです。

「Q & A」は、その義務と責任を果たす為の具体的表れの一つと理解できます。

「新聞記事は、ひどく間違いが多い」か？

牧田議員は言います。「段々そんなことをやっているうちに（国民対して上から目線で接しているうちに）新聞記事もひどく間違いが多いし」と。

しかし、そんなに「新聞に間違いが多いでしょうか？

参考までに新聞通信調査会という所で毎年、「メディアに関する全国世論調査」を実施しています。その調査項目の「各メディアの信頼度」では、NHKテレビがトップで次に新聞が来ています。どちらも70%を超えていたものです。ただ、2014年度は、慰安婦問題の誤報や原発問題での誤報が影響して、新聞の信頼度を70%をわずかに切りました。しかし、雑誌の40%台に比べ信頼度の高いことがわかります。私の理解では、もし、牧田議員が言うように新聞が「ひどく間違いが多い」メディアであり、それが常態であるとすれば、新聞はこれほどの信頼度を維持出来ないだろうと思えます。

実は、牧田議員に「新聞記事もひどく間違いが多いし」と言わせている動機は、「事実」からのものではなく、牧田議員の「虚勢と自己顕示欲」によるものと理解しています。

NHK記者の言い間違いが、非常に多くなっているか？

国民のもっと信頼度の高いメディアが、NHKテレビであることは先に触れたところですが、間違いが多いという「NHK記者」は「アナウンサー・論説委員」も含むと理解しますが、いずれにせよ、NHKのアナウンサーや論説委員の言い間違いは、まれにはありますが、牧田議員が言うほど「非常に多くなっている」とは到底思いません。

率直に言って、これも、牧田議員特有の「虚勢と自己顕示欲」の結果と理解するのが妥当だと思っています。なお、論理構成の点から指摘すれば、牧田議員が言う「NHK記者・アナウンサーの間違い」と「段々そんなことをやっているうちに(国民に対して上から目線で接していること)」との間には、相関関係が全く無いと言うことです。(上から目線の指摘が仮に正しかったとしても)

論理の矛盾や飛躍は、牧田議員のお家芸の様なものですから、今さら驚きませんが、無理矢理、「NHK記者」やアナウンサーの言い間違いと「上から目線」を結びつけて論理破綻を来すのは、結局、己の「虚勢の自滅」を招いている事を知るべきです。

言い間違いは誰にでもあることです。

NHKのアナウンサーと言えども、時には、間違えることがあります。

それを「己の虚勢」の為に「悪用」するのは、「火事場泥棒」のようなものです。

私を含めてですが、「漢字の読み間違いや書き間違い」は、良くある話です。

それは言葉を職業とする新聞記者やアナウンサーや時には国語の教師だって間違えることが時にはある話です。そんなにびっくりするような話ではありません。

繰り返しますが、牧田議員が言うように「段々そんなことをやっているうちに(国民に対して上から目線で接しているうちに)非常に多くなった」ものではありません。

牧田議員の発言には、事実関係に「二つのウソ・間違い」が混じっています。このことはすでに述べたとおりです。つまり「上から目線」も「間違いが多くなった」と言うのは「ウソと間違いだ」と言うことです。

まれにあるNHKのアナウンサーの言い間違いを知ったからと言って、それを、公の場で「己の虚勢」のために悪用するのは「火事場泥棒」の様なものです。

牧田議員が言うようにNHKのアナウンサーもそうですが、その他にも、著名な方々が、言葉を間違えて言うことがあります。だからこそ、牧田議員が指摘する事とは関係ないと言っているのです。漢字の「読み違い間違い」「書き違い」は、専ら個人的な問題です。

この際ですから、NHKのアナウンサー以外にも、有名人・身近な人の「言葉の間違い」を、若干、紹介しておきます。これらには「意外性」と「珍しい部類」の両方があります。

(1) NHKの放送で。

①国谷裕子キャスター

「農作物（のうさく**ぶつ**）を（のうさく**もつ**）」と言った。

単に「作物」と「農作物」とは、読み方が違う。

※この時の印象は、「この方ほどの才媛でも、間違うことがあるんだな」と思い、「ほっと」した記憶があります。

②目方アナウンサー

「市井（**しせい**）」を（**いちい**）と言った。

※この時は、相手をしていた方が、さりげなく、**しせい**と言って同じ説明をしていた。

③数日前のNHKの「クローズアップ現代」で、ゲスト参加をしていた高校の国語の教師で詩人という方が、吉野弘の詩の解説で、「好悪（**こうお**）の感情」を「（**こうあく**）の感情」と言い間違いました。

(2) 民放でのこと。

①だいぶ前の話ですが、ある女子アナが、「浴衣（**ゆかた**）」を（**よくい**）と言ったと話題にしていた。

。

②比較的最近ですが、政治評論家の伊藤惇夫氏が、TBSの「ひるおび」という番組の中で、順風満帆（**じゅうふうまんぱん**）を（**じゅんぷうまんぼ**）と言っていた。

(3) その他

①韓国ドラマに「馬医」というのがやっています。（現在は再放送中ですが）その何回目かに「出生（**しゅっしょう**）」を**しゅっせい**と言っていました。

②スコットランドで日本語ガイド（テープ）付きの観光バスに乗りました。その時、テープのガイドが、「ダーウインの種の起源（**しゅのきげん**）」を（**たねのきげん**）言いました。

(4) 文学関係者の「使い方の間違い」。

まさかと思いますが、彼等も人間です。

①「諫める（いさめる）」という言葉の使い方。

これは、目下の者が、目上の者に意見を言うときに使う言葉。

「諫言する」ともいいますが、意外にも、プロの作家達でも時々間違って使います。

●井上由美子（脚本家）・・白い巨塔などの脚本など多数。

NHK大河ドラマ「北条時宗」の作品中で「舅が嫁をたしなめる」場面の時に「お前をいさめるが」とのセリフ。原作では、「いさめる」とは言っていない。

●俵万智（歌人・小説家）

雑誌「文藝春秋」に「源氏物語」を連載したときに、「いさめる」を同様の使い間違いがいをしていた。

●落合恵子（小説家）・・・本の名前は（随筆）は忘れましたが、同僚から借りて読んだ本の中に、例の「いさめる」を、間違って使っていました。

※NHKと文藝春秋社には、連絡しており、間違いを確認しておりますが、落合恵子氏には、その時の気分で、伝えないままになっている。

（３）私の周辺でのこと。

①ある学校で、校長が全校集会の時、異口同音（いくどうおん）を（いくちどうおん）と言った。

「いくちどうおん」と言ったとき、生徒達はお互いに顔を見合わせました。私は教頭に「間違っていると言わなければダメだ」と進言しましたが、教頭はついに校長には何も言いませんでした。

上昇志向の強い人は、余計なこと（？）は言わない習性を持っていますから。そのため、心配していたことが再び起こりました。全校集会で「いくちどうおん」と再び言ったのです。私は、我慢できず校長に言いました。『誠に申し上げにくいことですが、あれは、「いくどうおん』と読むのですと。

その時、校長の態度が忘れられません。「ええっ！」と声をあげてびっくりして『そうか』と何度か言ったあと、「いやあ、恥ずかしい」と言い、そして、「ありがとう」とこれも何度か言いました。室工大出の化学の教員でしたが、その時、正直な人柄と謙虚さを感じました。

当たり前と言えば、当たり前ですが、そう言う人は、そうそう居ないのです。

②これもある学校でのこと。全校集会である教頭が「一朝一夕」（いっちょういっせき）を「いっちょういちゅう」と言ったのです。

この件も教頭に言いました。あれは「いっちょういっせき」と読むのですと。紙に平仮名を振ってこっそり渡しました。以前の校長のような態度を予想してのことでした。しかし、教頭が言いました。「あれは、生徒にわかりやすく言ったんです。」と。びっくりしました。かつときて、「ああ、そうですか。とにかく、生徒の前で、ウソを言わないで下さい。間違って覚えたら大変ですからね」と言っておきました。

③同じように「開き直られた(?)」事例

入学式・卒業式でのこと。ある来賓の方は、いつも、高村光太郎の「道程」の一部を言って 話をするのですが、その方は「道程（**どうてい**）」を「**みちのり**」と言って「僕の前には道はない。僕の後ろには道が出来る。」と言うのです。入学式と卒業式に、毎年来られる方なので、私は校長にお願いしました。「生徒が間違えば困るから、あの詩は「**どうてい**」というのですと伝えてくれませんか」と。校長は人を介して伝えたとのことでしたが、その際、その方は「**みちのり**とも読むんだ」と言っていたとのことでした。それを聞いてから、私はその方を嫌いになりました。高村光太郎の詩の名前は、あくまでも「**どうてい**」です。

④議会答弁における「言葉の間違い」

ある人の答弁の中で、「足跡（そくせき）」と言うべき所を「あしあと」と言いました。あの場合は、人の経歴に関わる説明の場面ですから「そくせき」です。「あしあと」ではありません。
また、同じ方ですが、「言語道断（**ごんごどうだん**）」と言うべき所を「**げんごどうだん**」と言っていました。
この間違いについては、私は本人には伝えていません。それほど親しくないし、喜んでくれるかどうか、経験的に自信が持てなかったからです。
ただ、願わくば、児童・生徒の前では言うて欲しくはありません。
この種の間違いは、議会での発言ですから、まだ、「罪のない間違い」と言えるでしょうが、子ども達の前で言うことは、好ましいことではありません。

間違いはお互い様。

しかし、その事実を教えられたときの態度でその人間の誠実さや値打ちの
ようなものがわかります。

私の場合、同僚・あるいは生徒からの指摘で間違いを幾つも知りました。
ある教頭から「庭」という漢字の書き間違いを教えてもらいました。
また、「裏」という漢字の間違いや「飛」という漢字の筆順の間違いも
生徒から指摘されました。今でも「指摘されたこと・教えてもらったこと」
に感謝しています。また、「卵」という漢字に縦棒が1本だったか二本だ
ったか、今でも一瞬、迷いますが、以前、公開授業の時、一瞬迷ってあげ
く、1本足りなく書いてしまったことがありました。授業終了後、間違い
を自分で確認しました。（因みに、私は国語の教師ではありません。）
こうした間違いは、私の場合、専ら、個人的理由によるものです。

私の場合、間違いの主な原因は、漢字を正確に覚える重要さの認識が出来ていない小学校から高校生までの間、漢字の練習をしっかりとせず、適当にやっていたからです。

もう一つは、読書が「子どもの本から大人の本」に移っていく時期、私の場合、中1の夏からですが、読めない漢字を「湯桶読み」・「重箱読み」を含め、適当に読み進んでいき、間違っただまの記憶が、学校の授業やその他の場で、大人になっても修正しきれずに残ってしまったという事情もあります。このような似た事情は、作家やアナウンサーを含めた言葉を仕事とする人達の中にもあるのではないかと推測しています。

それを、公の場で「己の虚勢」のために悪用するのは「火事場泥棒」の様なものだと言ったのです。

「間違い」と「ごまかし」は別物です。「間違い」は訂正出来るが、「ごまかし」は、いつまでもいつまでも、訂正出来ないし、しない。それが一緒になっている事例が、「欠陥と瑕疵」の問題です。

⑤ 許しがたい間違い。・・・いまだに訂正されていない議会答弁。

「(あれは) 瑕疵であって欠陥でない」との議会答弁。

つまり、「瑕疵と欠陥は同じ意味であるのに、別なものだと答えたこと」は間違っているのです。瑕疵というのは、欠陥を示す法律用語なのです。

「無知」から出た間違いが、「ごまかし」や「言い逃れ」の為に使われ、「いまだに、訂正されていない」ことを、私は軽くは見ません。

答弁した課長。それを指摘されて回答を寄こした別な課長も、その間違いをいまだに認めていない。町長も認めておらず「ほっかぶり」状態のままです。

なぜ、認められないのか。それははっきりしています。町長と関係の深い業者を弁護するために議会答弁がなされているからです。そこでは、町民・保育所利用者の利益はネグレクトされています。いつまでも間違いを訂正出来ないのは、町民のために仕事をしているのではなく、町長関係者のために仕事をしているからです。そう言われても仕方がない状況が今なお続いているからなのです。

牧田議員は、NHK記者の言い間違いを言う前に、議会答弁の「間違っただ用語の使い方」を指摘するべきです。町理事者のごまかしを指摘する必要があるのです。

因みに、この点は無料法律相談で弁護士に「欠陥と瑕疵同じ意味である」ことを確認しています。NHKの土曜日の昼にやっている「生活笑百科」でも言っていました。ボードに「瑕疵のある住宅」とあった点を弁護士が、「欠陥住宅のことです。」とはっきり言っていました。町の顧問弁護士にでも聞いてみてはどうか。

